



● 平成 23 年度障害学生支援大学長連絡会議を開催

10月15日 土曜日、同志社大学寒梅館を会場として、同大学の協力を得て「平成23年度障害学生支援大学長連絡会議」を開催しました。今回は4回目の開催で、国立、私立大学合わせて14大学の学長や障害者支援担当者が出席しました。

会議に先立ち、村上学長から、「東日本大震災において障害学生の安否確認や被災後の情報保障が難航したことを踏まえ、しょうがいのある学生に対する災害時対応の現状について協議し、問題点の把握と今後の対応について考える一助にしたい」旨の挨拶がありました。

はじめに、被災大学の宮城教育大学から協議の提案理由について説明があり、次いで、本学から、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）加盟大学の協力を得て行った東日本大震災時における東北地区大学支援プロジェクト「モバイル型遠隔情報保障システム」の取組の説明がありました。本学の説明と同時に、同志社大学の協力を得て、iPhoneを使用した遠隔情報保障支援のデモが行われ、引き続き、各大学における災害時の対応状況、今後の課題等について協議が行われました。

協議終了後は、同志社大学内の東北地区大学情報保障支



会議の様子

援会場や今出川キャンパス内施設の視察を行いました。

同会議に出席された大学は、次のとおりです。

宮城教育大学、群馬大学、東京学芸大学、上越教育大学、愛知教育大学、日本福祉大学、京都教育大学、同志社大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、関西学院大学、鳴門教育大学、福岡教育大学、筑波技術大学

（総務課 浦田 里子）

● 第 11 回国際シンポジウム 2011 を開催

9月30日 金曜日、天久保キャンパス講堂において、第11回筑波技術大学国際シンポジウム2011が開催され、本学大学院生や筑波大学学生を含む約90名の参加者がありました。村上学長の歓迎挨拶のあと、韓国ナザレ大学のイ・ヒョング副学長による「ナザレ大学における留学の支援」

と題した講演、次いで韓国国立再活福祉大学のユン・ジョンヨン学長による「国立再活福祉大学における留学の支援」と題した講演がありました。

講演後、休憩をはさんで質疑応答の時間が設けられ、両大学のカリキュラム、情報保障を含む学生支援、韓国における障害者の法定雇用等について積極的な質疑応答が行われました。韓国国立再活福祉大学のユン・ジョンヨン学長は、これまでも本学を訪問していますが、シンポジウム前日の春日キャンパスと天久保キャンパスの施設見学時に、本学の施設や設備が一昨年よりも充実している旨の感想を述べられ、継続して本学との教育・研究の交流を望むことを力説されました。また、韓国ナザレ大学の聴覚に障害のある学生が産業技術学部で学ぶ「国際教育短期プログラム」が、10月3日月曜日から2週間の予定で始まるため、学生の派遣・受入れをテーマとした今回のシンポジウムは、情報交換の意味でもタイムリーなものとなりました。

（国際交流委員会 須藤 正彦）



討論の様子

「国際教育短期受入プログラム」(ショートステイプログラム)の実施について

10月3日月曜日から14日金曜日までの約2週間、障害のある留学生を対象とした「国際教育短期受入プログラム」(ショートステイプログラム)を実施しました。このプログラムは、「障害のある留学生受入計画」の一つとして実施されたもので、平成23年度日本学生支援機構「留学生交流支援制度(ショートステイ)プログラム」に採択されたものです。

プログラムの概要は、本学への留学を希望している障害のある留学生を事前に受け入れ、「障害関係教育科目」や関連の「専門教育科目」の受講、「日本語・日本文化」の体験及び手話実習等の学習・体験を行い、後に本学学部学生又は大学院生等として円滑に入学するための体験的な予備教育を行うこと、または長期留学へ繋げることを目的とするものです。

本プログラムは、特に、海外の協定校から注目されており、今般、協定校である韓国ナザレ大学から聴覚に障害のある留学生3人を受け入れました。

留学生は、積極的に多様な授業を聴講したり、日本語や日本文化、手話等を体験・学習して、本プログラムを無事修了し、各自の留学目的を達成して帰国しました。

1 留学生受入の背景

本学では、留学生の受入について、海外の協定校から訪問見学や海外インターンシップとして聴覚及び視覚に障害のある留学生などを受け入れています。また、学部や大学院の正規課程では、国内の学校から一般入学試験で入学した留学生が2～3名在学しているものの、直接、海外から入学した例はありません。

現在、日本の大学において、聴覚及び視覚に障害のある留学生を正規課程(学部、大学院)に受け入れている例は非常に少ないものの、近年、韓国や中国などアジア諸国の障害学生は日本の大学に留学することを強く望んでいることも確認しています。

そこで、本学では、これらの事情や「留学生30万人計画」を踏まえつつ、優れた障害のある留学生を受け入れて、異文化交流を通じて相互の理解を深めるとともに、本学学生にも国際的な感覚・グローバルな視点を身につけさせることとし、教員の交流を含めて本学の国際化を推進することとしています。

そのため、本学では、「障害のある留学生受入計画」を策定し、海外の協定校から障害のある留学生を学部又は大学院に本格的に受け入れるため、留学生センター設置準備室を設置して、留学生支援を進めているところです。

2 「国際教育短期受入プログラム」(ショートステイプログラム)の内容

協定校を対象とした「国際教育短期受入プログラム」により、韓国の協定校からの推薦を受け、出願のあった3名の留学生について、受入を許可し、本プログラムを実施しました。

本プログラムの内容は、当該年度に開講している専門教育科目及び障害関係教育科目の聴講、日本語や日本文化、手話等の体験学習とし、留学生は、希望する学習コースの専門教育科目を本学学生と一緒に聴講しました。

受講した科目については、「学習ノート」に学習内容等を、毎日記録し、提出させ、学習の理解度等について確認しました。それぞれの学習成果については、プログラム最終日に「学習成果報告会」を実施し、留学生センター設置準備室において作成した「評価基準」により、学部等教員が留学生個々の学習の達成度を評価し、「おおむね良好」と判断された留学生には、「修了証書」を交付することとしており、今回は、本プログラム留学生3名全員に「修了証書」を交付しました。

また、本プログラムの改善及び留学生受入計画の参考とするため、留学生に対して報告会終了後にアンケートを実施したところ、奨学金を有効活用ができたこと、また、全員から本学への留学を希望しているとの回答を得ました。

3 「国際教育短期受入プログラム」(ショートステイプログラム)の修学支援

本プログラム初日に「オリエンテーション」を実施し、プログラム内容等、事故や病気、相談等の対応、情報保障等についての説明、キャンパス見学(保健管理センター等)を実施しました。

今回、受け入れた留学生は、全員が聴覚に障害のある学生であったため、受講時には、他大学大学院の韓国人留学生をチューターとして配置し、韓国語によるパソコンノートテイクでの情報保障を行うことにより、授業の理解を深め、留学の成果が得られるよう配慮しました。また、本学

(1週目) 平成23年度国際教育短期プログラム標準授業時間割【総合デザイン学コース】

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1 講義 8:50-10:20 日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室		
2 講義 10:30-12:00 オリエンテーションガイダンス (全科目系 他) 大倉講堂	CG基礎論・演習 (1年次) 117室	経営学基礎論 (英米 大形) (2年次) 302室		デジタルデザイン論 (鈴木) (3年次) 115室		
3 講義 13:00-14:30 キャンパス見学 (聴覚障害系支援課)			聴覚障害文化論 (大形) (3年次) 215室	視覚伝達デザイン論・演習 (4年次) (鈴木) (3年次) 115室		
4 講義 14:40-16:10 タイポグラフィ基礎論・演習 (鈴木) (2年次) 202室	手話指導・実習 (手話入門) (大形 他) ゼミナール室	手話指導・実習 (手話入門) (大形 他) ゼミナール室	シンボリック基礎論・演習 (井上 他) (2年次) 117室			
5 講義 16:20-17:50 障害関係教育科目 — 日本語 — 日本語			情報管理技術とコミュニケーション (三好 石橋 佐藤) (1年次) 213室、214室、215室			

【】内数字は単位数
 ※手話指導・実習 本学学生を補助員として配置予定(隔年ノーメイクを予定)
 ※学生生活の支援 筑波大学の韓国入籍学生をチューターとして配置する他、本学の学生をチューターとして配置

(2週目) 平成23年度国際教育短期プログラム標準授業時間割【総合デザイン学コース】

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1 講義 8:50-10:20 日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室	日本語(聴覚) ゼミナール室		
2 講義 10:30-12:00 タイポグラフィ基礎論・演習 (鈴木) (2年次) 202室		経営学基礎論 (大形) (3年次) 215室		経営学基礎論 (大形) (3年次) 215室		
3 講義 13:00-14:30 タイポグラフィ基礎論・演習 (鈴木) (2年次) 202室						
4 講義 14:40-16:10 タイポグラフィ基礎論・演習 (鈴木) (2年次) 202室	手話指導・実習 (手話入門) (大形 他) ゼミナール室	手話指導・実習 (手話入門) (大形 他) ゼミナール室	モデリング基礎論 (金田) (2年次) 工学			報告会 214室
5 講義 16:20-17:50 障害関係教育科目 — 日本語 — 日本語			デザインプレゼンテーション演習 (鈴木) (2年次) 115室			

【】内数字は単位数
 ※手話指導・実習 本学学生を補助員として配置予定
 ※学生生活の支援 筑波大学の韓国入籍学生をチューターとして配置する他、本学の学生をチューターとして配置

学生もチューター（ボランティア活動）として配置し、本学内での生活面のサポートを行いました。

4 今後の留学生受入と課題

留学生の受け入れについては、現在のところ、協定校との間に限定していますが、学部学生、大学院生など正規課程への入学の他、特別聴講学生（交換留学生）としての入学、ショートステイの短期体験入学まで、多様な留学生受入方

法を用意しています。

留学生受入については、日本語の問題、入学試験の方法、経済的な支援など、解決しなければならない課題があります。今後、受入の実績を積み上げ、これらの課題の解決やプログラムの評価・改善を行います。

（聴覚障害系支援課 中嶋 靖雄）

● 平成 23 年度筑波技術大学学園祭を開催

天久保キャンパス学園祭「天龍祭」は、10月28日 金曜日から30日 日曜日まで、春日キャンパス学園祭「春日祭」は、10月29日 土曜日と30日 日曜日に、各キャンパスで開催されました。

天久保キャンパス学園祭は、“時の流れと共にいくつかの瞬間がぶつかり合う。何の意味を持たない瞬間は忘れられるものであるが、本当の意味を持つ瞬間は心に刻まれる。そんな瞬間を学園祭から生み出したい。”という意味を込めて、「-とき-瞬間」をテーマにして幕を開けました。

前夜祭を皮きりに、本祭では恒例となった手話スピーチコンテスト、手話コーラス、デフラグビー教室、ファッションショー等のイベントに加え、ステージでのパフォーマンスや作品展示、多数の模擬店も出店されました。

後夜祭では、アンケートによる No.1 企画の発表があり、今年度の No.1 企画には NTUT バレーボール部による模擬店企画の「たません」が選ばれました。

春日キャンパス学園祭は、「祭～忘れられない思い出～」をテーマにして幕を開けました。

企画数は20件と例年より若干減りましたが、「Windowsをキーボードで操作してみよう!」、「談話会」、「ブラインドサッカー体験会」、「切手展」などの企画には多くの人が詰掛けました。また、模擬店は4店が出店し、さらに恒例の「極楽堂（あん摩・マッサージ）」や「Angels Hands（オイルマッサージ）」なども大盛況でした。

中庭では天候にも恵まれ、ギターやバンドなどの演奏、「リハレンジャー」、「YAPPE 隊」などのステージ企画が催され、たくさん見学者を楽しませ、魅了し、充実した学園祭となりました。

今年度は、両キャンパス学園祭が同時開催のため、つくばセンターと天久保キャンパス、春日キャンパスを結ぶ「無料循環バス」が運行され、学内外からの見学者で賑わいました。

（聴覚障害系支援課 本間 陽也・
視覚障害系支援課 林 登）



ステージでのパフォーマンスの様子
(天久保キャンパス)



ステージ企画リハレンジャーの様子
(春日キャンパス)

● 平成 22 年度教育研究活動成果等報告会を開催

9月22日 木曜日、天久保キャンパス講堂において平成22年度教育研究活動成果等報告会を開催しました。これは、本学において前年度に実施された各教育研究事業の成果及び進捗状況について報告し、学内外関係者の理解を深め、意見交換を行うものです。これにより、当該教育研究事業の今後の発展に寄与することを目的としています。

今回は、全学プロジェクト及び個人研究の中から選抜された計8件の報告を行いました。本学教員、事務職員の他、学外関係者や本学大学院生等合わせて約70名が参加しました。

(学術・社会貢献推進委員会 皆川 洋喜)



報告会の様子

● 平成 23 年度筑波技術大学インターンシップを実施

本学学生の就業意識の向上や大学事務に対する理解を深めることを目的として、8月29日月曜日から9月9日金曜日までの10日間の日程で、インターンシップを実施いたしました。今回のインターンシップは、保健科学部情報システム学科3年次の学生1名が、事務局各課の受け入れ担当者の指導のもと、事務局の総務課、財務課、聴覚障害系支援課及び視覚障害系支援課において、大学の管理運営及び学生支援に関する業務を体験しました。

最終日には、インターンシップ成果報告会が行われ、本学の教職員が聴講するなか、インターンシップ中に体験した様々な業務をとらえて大学の教育・研究を支えるサポート及び管理業務について理解が深まったことや今後の進路選択を行ううえでも有意義なインターンシップであったことなどの報告があり、併せてインターンシップ中の指導に対する謝意が述べられました。

(総務課 和田 裕二)



成果報告会の様子

● 遠隔協調授業開始

9月2日 金曜日と3日 土曜日、筑波技術大学天久保キャンパスと韓国ナザレ大学を結び遠隔協調授業を行いました。これは「聴覚障害者の専門性・協調性向上を目的とした教育資源環境構築事業」の一貫として行ったものです。ナザレ大学で筑波技術大学の若月准教授が講義を行い、ナザレ大学の学生と筑波技術大学の学生が同時に授業を受講しました。日韓の学生がグループを組み、グループ内で討論を行いながら2日間で作品を作りました。

(産業技術学部 内藤 一郎)



遠隔協調授業の様子

● 本学の平成 24 年度入学試験日程

今後の入学試験日程については次のとおりです。

個別学力検査 (前期日程)

出願期間 1月23日月曜日～2月1日 水曜日

試験日 2月25日 土曜日

合格発表 3月6日 火曜日

なお、上記試験については、平成24年度大学入試センター試験の本学が指定する教科・科目を受験していることが必要です。

筑波技術大学ニュース 第22号

発行 筑波技術大学 広報室

編集 筑波技術大学 総務課

発行日 平成23(2011)年12月

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4丁目3-15

URL <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>

E-Mail kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp

Tel 029-858-9424

Fax 029-858-9312